

# 複数種を対象とした資源動態モデルの構築

生物生態部

## 研究の背景・目的

1. 多獲性魚類には魚種交代見られ、魚種間で相互に影響あり
2. 漁業管理には複種類を対象とした資源動態モデルの開発が必要
3. このモデルには物理的、生物的、環境要因を取り込むことが必要

## 研究成果

1. 捕食種、競合種、環境要因(水温、餌密度等)を組み込んだマイワシ初期生活史モデルの構築により、卵から漁業への加入までの生残変動を解明
2. 年齢を考慮した未成魚・成魚の資源モデルと統合し、シミュレーションにより、マイワシ資源の1990年代の減少を再現

## 波及効果

1. 環境要因(水温、餌密度等)の入力により、資源量の予測モデルへの発展が可能
2. 捕食種、競合種の影響を評価するため、統合型複数種モデルへの拡張が必要

